

ASAセッション

学際的研究領域としての『破壊学』

場所と日時：B会場（2号館1階212教室） 2026年3月17日（火）12：30～14：00

登壇者公募：なし

趣旨：

『破壊学』とは、外力による物体の不可逆的形狀喪失や分離など、いわゆる「破壊」がもつ意味や価値について、学際的に分析検討し、価値を創出する破壊のデザインを目指す新しい研究領域です。

今回のセッションでは、破壊という現象とその意味や価値が、感性工学をはじめとする異なる学問分野の視座からいかに解釈されうるかを重層的に検討します。座談会形式で、直近の研究成果の共有やディスカッションなどを行います。



エンタメとしての瓦割り
(脆性破壊)



個包装の開封によるセキュリ
ティ効果（切り欠き効果）



プチプチ®つぶしが創出する価値
(延性破壊・破裂)

登壇者：

渡部武夫	神奈川工科大学
柿倉圭吾	東京都立大学・院
稲村健太郎	福島大学
大枝真一	木更津高専

全体討論ファシリテータ：

江尻綾美	福島大学
------	------

ほかゲスト登壇者を予定

- ・かたちをつくる破壊
- ・生命をまもる破壊
- ・中身を取りだす破壊
- ・交わりを生む破壊
- ・感性をデザインする破壊
- ・アートを高める破壊
- ・持続可能な社会をつくる破壊

～価値を創出する破壊のデザイン～

内容：

- ・『破壊学』の概念の共有
- ・『破壊学』と感性工学に関する全体討論
- ・『破壊学』に関連する研究発表等 ～機械工学、文化人類学、租税法、AIと教育、など学際的観点より～